No. 8

西柴アマモ隊の活動

坂田邦江（横浜市立西柴小学校）

西柴小学校は、横浜市で最も南の金沢区にあり。海を見おろすことができる、ちょっと小高い丘の上にある小学校です。すぐ近くには、柴漁港や金沢漁港があります。

私がこの学校に参りましたのはちょうど３年前で、アマモ場再生会議が設立された年でもありました。

総合学習というのは生きる力をつける、生きる力を育てるために行うと考えています。教える内容が決められていませんので、子供たちが問題を見つけて、それをどう解決していくかという過程を通して問題解決力をつけるものです。その中で、知ることだけにとどまらず、その知ったことをもとにして自分たちに何ができるのか、ということを考え、追究し、行動に移していく。そういう力が必要なのではないかと、私は、常々考えてきました。

３年前、４年２組で最初に取り組んだ課題は、「命いっぱいの活動」でした。体験学習に行き、ホタルの命に感動した子供たちが、桜、虫、魚、水草、それから鳥、海という６つのグループに分かれて活動を始めました。

その中の「海の命いっぱい」の子供たちは、教育ボランティアの方から、「皆さんが海の命いっぱいを学習するのなら、アマモというのを紹介しましょう」と教えていただいたことが、アマモに出会ったきっかけでした。

アマモの種の選別会があるということを聞き、７月２６日に、選別会に参加しました。その後、アマモ場再生会議の皆様のイベントに参加するようになりました。約１年間通して、アマモの役割や、アマモの育て方や、人としてアマモにどのようにかかわれるのかということを学びました。

その後、子供たちは５年生に進級し、私も担任が変わりました。４年生の時、総合でほかのグループだった子供たちが、今年も城ヶ島でアマモの種子選別会があると聞き、「僕たち、アマモのことをしていないので、やってみたい」と誘い合って、一緒に参加するようになりました。そこで、私がその世話人をすることになり、子どもたちが決めた「西柴アマモ隊」の活動が始まりました。この活動は、１年間続きました。

このアマモ隊の活動を、『まちで行われている海の再生活動を学校の教育の中に取り込み、子供たちの主体的で実践的な力を育てていきたい』という内容の特設クラブとして提案しました。その結果、これまでの活動が認められ、西柴アマモ隊として正式に位置づけられました。

３年間の活動を思い起こしてみますと、次の４つのねらい（育てたい力）に整理されるかと思います。

１つ目は、まちの人々の協働のすばらしさに気づき、ともによりよい街をつくろうとすることができる。2つ目は、金沢八景－東京湾アマモ場再生会議が主催する活動に参加し、海の環境再生への関心を高めるとともに、アマモの果たす役割について理解することができる。3つ目は、友達やまちの人々にアマモの役割を伝え、海の環境再生の活動の輪を広げようと取り組むことができる。最後の４つ目は、自らの生活を振り返り、環境に優しい生活を行う実践的態度を身につけることができるというものです。

そこで保護者にこの３年間、アマモ隊に参加して、子供たちに変化したことがみられないか？と、アンケートをとってみました。そうしましたら、・海の環境や動植物への関心が高まった。・水質やごみへの関心が高まった。・外に出ることに積極的になった。・海を守っていこうとする大人の姿を見て、自分たちも頑張ろうとしている。いろいろな人と触れ合い、より明るく、生き生きと活動するようになった。・見知らぬ大人の人と１つの目標に向かって協力できるという自信が持てた。・資源ごみの分別に積極的になった。・環境問題を身近に考えるようになったというような保護者の方の意見をいただき、大変うれしく思いました。

つい先日、１１月３日にベイサイドマリーナでアマモの播種シートづくりが行われました。昨年に引き続き、２回目の発表の場をいただきました。その様子から感じたことがあります。子供たちの活動は、学校の中で小さく終結してしまうのではなく、子供たち自身がまちに積極的に発信していく。それが、子供たちの生きる力をつける元になるのではないかということです。

学校では体験教育を重視していますが、まだまだ子どもたちが自主的に社会の一員として、様々な事象に参加していくことは、少ないといえるのではないでしょうか？

ある日、特設クラブを組織して、面白いことに気づきました。それは、保護者の変容です。子どもの引率に来てくださったお父様が、最初は背広姿でしたが、２回目はジャージ姿や、それなりの服装でこられるようになった事です。「さあ、きょうはやるぞ」というように、大人自身が子供を通して変わっていくことです。お母様も始めは傍観している様子ですが、簡単な軽作業はみんなでやりましょうという思いがすぐに広がります。

このように、子どもを中心に周りの方がどんどん変化していく様子を見ると、学校の中だけで行動するのではなく、街の中で発信していけば、もっと多くの方々に伝わるのではないかと考えます。

海の環境再生の取り組みは、アマモの他にもいろいろあるでしょうが、現代の最先端の活動を子供に生で見せることがとても大事な気がします。今、最先端でどんな苦労があって、どういう努力をしているのかということを子供たちにつぶさに見せることが、次の世代を担う子供たちを育てることにつながると。これらの活動は人づくりに大きな影響力があるのではないでしょうか。

それを期待して、私は今、アマモに関わっています。

【ポイント】学校側の市民活動への理解が重要です。子どもたちの教育を団体にまかせるのではなく、その活動を通して、どのように教育したいと考えているかを教師側が明確に持ち、社会と協働することが大事ではないかと思います。

西柴アマモ隊の活動

Activities of *Nishi-shiba Amamo-Tai* (Eelgrass Troop)

■ 活動の目指すもの

本校における環境教育の目標の一つ「環境にやさしい生活ができる子の育成を目指す」を受け、活動方針「地域の環境保全･再生活動に参加し、地域との連携活動を行うことを通して、共によりよいまちを創る力を育てる」を設定した。その取り組みの組織として、特設クラブ「西柴アマモ隊」を位置づけ、環境教育の推進を図る。活動を通して育てたい力は次の通りである。

○アマモの移植活動を体験し、「まち」の人々の協働のすばらしさ　に気づき、共によりよい「まち」を創ろうとすることができる。
○金沢八景－東京湾アマモ場再生会議が主催する活動に参加し、海　の環境再生への関心を高めると共に、アマモの果たす役割につい　て理解することができる。
○「友だち」や、「まち」の人々にアマモの役割を伝え、海の環境　再生の活動の輪を広げようと取り組むことができる。
○自らの生活を振り返り、環境にやさしい生活を行う実践的態度を、身に付けることができる。

■ 活動場所について

○アマモ場再生会議が主催するアマモ移植に関するイベント会場
　<城ヶ島･野島公園･海の公園･金沢漁港･柴漁港･ベイサイド　マリーナ･臨港パーク等>
○学校内での活動
○地域（海の公園や野島での活動）

■ 活動期間、頻度について

○活動時間－－－平日の中休み･休日･祝日の活動
○活動頻度－－－休日の活動は月に2～3回程度

■ 関係者について

･西柴小学校　学校長･副校長および4教諭
･西柴アマモ隊児童　２２名
･金沢八景－東京湾アマモ場再生会議の皆様

○主な活動内容
・アマモの移植活動への参加（花枝採取・種の選別・播種シートづくり・苗の移植・アマモの観察・磯の生き物の観察等）
・アマモの生育観察
・「まち」での発信（イベント会場での西柴アマモ隊の活動紹介）
・学校内での発信（児童朝会での活動報告や呼びかけ）

横浜市立 西柴小学校
（連絡先）〒236-0017　神奈川県横浜市金沢区西柴4丁目２３番１号　TEL 045-783-1182　FAX　045-701-5014
(インターネット)　http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nishishiba/

Nishi-shiba Elementary School
(Contact point) 4-23-1, Nishishiba, Kanazawa-ku, Yokohama, 236-0017, Japan　Phone +81-45-783-1182　Facsimile +81-45-701-5014
(Web page)　http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nishishiba/